

令和5年度 四條畷市人権文化をはぐくむまちづくり審議会 会議録

1.日時:令和5年12月11日(月)15時~17時

2.場所:四條畷市役所本館2階ミーティングルーム

3.出席者:(委員)8名

窪誠委員(会長)、河江文代委員(副会長)、青柳美喜委員、鈴木英孝委員、乗本良一委員、平田光司委員、守屋隆委員、吉田一矢委員、(敬称略)

(事務局)4名

笹田(市民生活部長)

太田(人権・市民相談課長)

谷口(人権・市民相談課長代理兼主任)

上村(人権・市民相談課)

●事務局

ただ今から令和5年度四條畷市人権文化をはぐくむまちづくり審議会を開催させていただきます。本日の審議会の司会を務めさせていただきます人権市民相談課の谷口です。どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様方には、大変お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の審議会の出席者は8人ございまして、四條畷市人権文化をはぐくむまちづくり審議会規則第三条の第2項に定める委員の総数の過半数を満たしておりますので、本審議会は、成立していることを申し添えます。また、この審議会につきましては、会議の公開に関する指針に基づき公開といたしておりますのでよろしくお願いいたします。ただ今の傍聴希望者は0人でございます。それではまず初めに、この4月に人事異動がありまして、山本部長から笹田部長に人事異動がありましたので、ご報告いたします。

●窪会長

ただいまご紹介いただきました大阪産業大学で国際を教えております窪でございます。皆様、昨日12月10日がどんな日だったか覚えていらっしゃいますでしょうか。実は世界人権宣言が国連総会で採択された75周年にあたりますが、その翌日ということで、歴史的な日の翌日に審議会を設定いただきましてありがとうございました。それぞれ一生懸命、世界人権宣言の精神を四條畷市でも実現できるように頑張っていきたいと思っております。それでは本日の議事に入って参りたいと思っております。それでは、案件1、四條畷市人権行政基本方針に関わる令和4年度実績報告について、事務局から説明をお願いします。

●事務局

それでは、上村からご説明申し上げます。11月の10日過ぎに、各委員様に実績報告の配布をさせていただきました。その中身としては、各課の実績のまとめ、評価のポイントということで、前進にかかるポイントについてなんです、それと実績の該当課一覧、あと目標設定、あと事前に質問をいただきたいということで渡させていただきました。皆様ご一読いただけたと思いますが、いただきました内容について乗本委員からご質問をいただきまして、各回答を担当課に照会をさせていただきました。その内容について、進めさせていただきたいと思えます。まず、企画広報課からですが、広報誌の質問内容としましては、広報誌内の特集記事、未来への語り継ぎをはじめ、何点かの広報記事を見せていただきたいということです。評価が前進とされているということで、この内容につきましては、各広報の記載をさせていただいております。この部分につきましては特集も含めて記載しているわけですが、PDFにして各人権に関わる部分をピックアップして資料を添付しております。ご一読いただきまして、ご確認していただきたいと思えます。続いて、もう一つ広報誌の2番ですが、広報誌の事業内容が他と比較して具体的でわかりやすかった。どう工夫されたのかということです。回答としては、広報誌内のイラスト写真など、2回目の構成の時点で紙面を通してイラストが業者から上がってくる際に、服装やランドセルの色、男女の体格、また職業や役割が固定的な価値感や性別役割分業意識に基づくものとなっていないかどうか、広報担当が確認し、必要に応じて業者に修正を依頼している。記事の担当課から指摘があった場合もできる限り修正をしているという回答いただきました。続いては、都市政策課で、男女共同参画の実現を意識した都市計画審議会の委員の選出についてです。質問いただきましたのが、都計審議会の委員構成が15名中5名となっている。図書館協議会は女性が半数以上となっていると。都市計画の関係の目標と現状は、ということです。これの回答が、本市男女共同参画の観点からすると、会議体の男女比率は50%と推奨されていることから、当審議会においても、このように認識してございます。現在の委員構成として市議会議員が5名、一般市民が2名、学識有識者が8名の合計15名で構成されており、学識有識者については専門性が高く、新たに委嘱する際に、現委員からの紹介等で選出となっておりますので、紹介時に考慮してもらうこととし、一般市民については、応募時に男女比率を考慮しながら選出を行うよう努めております。続いて学校給食センターで、男女共同参画社会の啓発事業ということでご質問いただいた内容が、男女共同参画社会啓発事業で性別に関係なく分担とあるが、コメントするところは理解できるが、下段のスポーツ文化振興課は具体的な記述はないが、わかりやすいこれでもいいと思えます。少し補足説明が欲しいということです。1例を挙げますと、大阪府学校給食栄養物資運営委員会の委員として90%が女性委員である中で、男性委員として会議に参加したという内容です。続けて、議会事務局です。議会だよりを議会情報提供ということで、議会だよりをカタログポケットの導入により、多言語で提供と、議会情報提供とあるがもう少し詳しく教えて欲しいということです。広報と議会がカタログポケットのアプリを導入、日本語を含む10の言語で表示が可能で音声読み上げにも対応。対応言語は日本語、英語、韓国語、中国語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語ということで回答いただいております。あと教育支援センターです。6番です。多職種の連携について評価が

前進となっているが何故なのか、全くの新規なのか教えて欲しい。評価が前進となっている理由は、報告時にポイントとしてお示した専門家関係機関との連携がとりやすくなったり、進んだりしたことです。教職員が専門家や関係機関についての理解を深めることで必要に応じて連携できるようになり、ケース対応が適切にされるためです。新規ではないということです。あと教育総務課です。意見交換をしやすい職場環境づくりというところで、意見交換をしやすい職場環境づくりの具体的中身について知りたい。毎朝実施している朝礼やチャットツールにおいて人権意識の向上に資する情報の共有を行った。また必要に応じて所属長との個人面談を実施し、個人の意見や抱えている問題等を聞きとるなどサポート体制の確保に努めたということです。あと学校教育課で8番です。人権研修の参加についてということです。質問としては、人権研修の参加について具体的中身について知りたいということです。これは小中学校全職員を対象に例年人権研修を実施しているということで、5月24日に学習講座1ということで分科会として実施されているということです。一番は部落問題学習の具体的な実践と自己実現の集団づくり、ジェンダー平等ということと、この3ヶ所に分かれて研修を行ったというそれと11月29日に学習講座2として全体会議ということです。四條畷市の多文化共生の取り組みについて、ということで2日間されておられます。他の人権研修としては、大人協の進路保証学習会、ひらがな学習会、大人協の夏大会、大人協の中河内大会、大人協の人権部落問題学習研修集会、北河内冬季研修会、以上主にはそういう形で研修されているということになります。9番目です。人権・市民相談課。人権施策推進リーダー研修ということです。前進と評価されているが、今まではなかったのか、なければ前進と評価の中身を教えてもらいたい。リーダー研修は実施しておりますけども、今回人権行政基本方針に関わる実績報告の評価について各課ばらつきがあるため、評価方法の統一と次年度の実績報告において、前進となる事業を目標設定とすることを提案していただいて、窪先生をお願いをして、リーダー研修を実施しました。あと、10番です。全体としての感想意見です。評価の前進、維持が実績表だけではよくは把握できない。評価は一体どこでどのようにされているのか教えてもらいたい。維持が続いているが気になります。詳細がわからず意見をするのは申し訳なく思いますが、現状維持が続くのは実質的に退歩になるという話を聞いたことがあるということです。評価については、新年度初めに各課の人権施策推進リーダーが前年度の実績報告とともに、担当課としての自己評価をしています。継続することが大切であるという考え方を持っている職員もいる中で、維持とするのか、前進になるのかの判断はリーダーの主観にある程度左右されているのが事実です。という現状はリーダーや各課においての考え方ということです。以上が今回乗本委員からいただきましたが他の意見もあれば、補足的でもいただけたらと思っております。

●窪会長

この件について各委員から何か言うことがありましたら、お願いしたいと思います。まず乗本さん。

●乗本委員

率直にいうと四條畷市はよくやっていると思います。私がやっていた頃の私の市と比べてみたら、正直恥ずかしいなと思くらいです。私のいた市は停滞しているかわからないが、四條畷市のように審議会でチェックしているのは良い事。ただ1点ちょっと意見を言いますね。現状維持というのは何か良いようで悪い。以前言われたのが全般的に現状維持というのはやっぱり駄目で、無理矢理変える必要はないですが常に何かどこか変えていく、新たなステージに対して変えるってことは大事。今回実績を見たら前進は、それなりにあるが現状維持があまりにも多かったので、そこはやっぱり率直に。後退は全然なかったですね。その辺は、もう少し具体的に評価していけば良いのではないかと思う。

●窪会長

確かに日本は経済については成長を前提として成長率という言い方をします。なぜか人権だけ維持になってしまう。やはり成長というか前進を前提として取り組むという姿勢は必要で大切なことですね。ありがとうございます。

それでは他の委員の方々も意見質問等がありましたらよろしく願いいたします。

●吉田委員

先日、人権週間で映画「破戒」の上映会を開催され300人を超える市民の方々に視聴していただいた。事務局のご努力に心から敬意を表します。私も人権協会の立場で会場から出てきた人たちの顔色をずっと見ていましたが、アンケートはまだ見ていませんので、それぞれいろんな感じ方があったと思うのですが、総じてそれぞれが心に感じて持ち帰っていただいているのではないかなど、かなり手応えを私なりに感じました。あの映画は見られた方はご案内の通りで、100年前の信州の話というふうに思われがちですけども、今の日本の国内情勢と全く変わってないというふうに私は感じました。2回見たんですけど。そういう意味でいうと、乗本委員からは、こういうふうに審議会の中で前進している、また評価をするという行為そのものについて、お褒めをいただいたんですけども、ただ、この令和4年っていうのは、ご案内の通りで、コロナ禍の中で、いろんな人達が差別とは言わんにしても、生きづらさを感じて、しかも、個人相談も含めてたくさん、いろんな機関に寄せられた。当然子供たちも学習の機会を奪われたり、夏の甲子園が中止になったことも。もう本当にいろんなところがいて、単に差別だけに限らず、そういう人々の生きづらさっていうことを、世間状況を考えると、この実績評価の中にある人権に配慮した、人権意識の向上であるとか、人権啓発要員であるということを自覚してっていうふうな表現が、あちらこちらに散らべられているのですが、ある意味、この人権行政基本方針なり人権条例を作った時っていうのは、行政全体が人権だというような理解の中で、それをどうやってボトムアップしていくか、1人の人にも、あの人たちのつらさをつなげていっていかってというようなことで作られたというふうに、そういう意味からすると、各課の評価の基準であったり、それぞれの課なりに個人的に反映されたという認識であるんですけども。それにしても人権意識の向上ということが当たり前に出てくるのは、当然市役所というところが生まれてから死ぬまで、すべて人々の尊厳なり、人権にかかわ

る仕事を全部やっていて、そういう意味でいうと、公務員になった時点で、自分が具体的な認識と現実のギャップをどう埋めていくか。人の尊厳をどう扱っていくかっていうことをわかっている人間以外は、公務員になってはいけない。私はそういう思います。これ採用条件の中でそういうことがちゃんと謳われているかどうかというところがやはり少し疑問のところ。長くなりますけども、今年の4月に縁があって事務局から、人権政策推進リーダー研修の講師の依頼を受けました。私は始めて言いますが兵庫の出身です。役所に在職中市民課で、「ここに部落がありますか」というような、差別問い合わせがあった事件がありました。これを一過性のものにしてはならないというふうな思いがあって、ただ、自分の出自をまず明らかにして、これが一体どういう問題なのかっていうことを、市役所全体に訴えるためには、どうしても自分の出自を明らかにせざるをえない。そういうようなことを、今回リーダーになった方々にまずお話をしました。いただいた感想やアンケートをすべて読ませていただきましたが、やっぱり身近にいる人が当事者であるということ、知ることによって、自分とその問題との接点ってというのはどれだけ大きなことなのかっていうふうに理解したということと、また一方では、あえてその自分の出自を明らかにするということのリスクが有るにも関わらず主訴するということは、なかなか同じようにはできないという、そういう率直な感想がありました。ただ、感想の中で感じたのは、やっぱりどう伝えるか、どう受けとめるか、そしてその受けとめたことをどうしゃべっていくかっていうことの学びですね、それがないと申し訳ないけども、大阪府内でも、すばらしい条例があります。そしてこういう検証していくっていう場があるということは良いんですが、どういうふうに自分たちのものにしていくかっていう努力とその努力の結果、やっぱりそれは数字で表せるものではない。自分自身もそうですけども、いろんな当事者と出会いながら、今まで認識してなかったことを覚醒されて、今まで差別と思ってなかった事が差別だったんだと。大人の立場で考えていたけども、子どもからしたらそれは子供に対する蔑視であった。というような事を経験してきました。だから、何が言いたいかと言うと、いろんな研修を重ねる、これはある意味スキルです。でも大事なものは、次の段階のセンスです。センスという言い方好きではないので感性と言いますが、その感性を育てていかないといけないし、これは何も市役所だけじゃないです。冒頭でも言った映画見に来ていただいて出ていかれた人たちが何か目がちょっと輝いているように見えたんです。これは手前味噌かもしれませんが。でもそれはあくまで見た人と見てない人との差が出てきたのかなということと、その人の心の感性っていうものに何かインパクトを与えたような気がしたんです。そういうことを継続していつ自分がどう変わったのかっていうことを、ここにやっぱり表現して欲しいんです。組織として。でないと、乗本さんもおっしゃったように、現状はありえない、人間一年一年歳をとって、経験を積んでいって、いろんな人と出会って役所の人なので、外国人や障害者の人たちと毎日毎日会って、その1人1人の話を聞いて、自分で引き寄せたり、対話の中でいろんなことを感じたりして、おそらく1年前よりも大きくなっているはず。だからそれをちゃんと図っていく必要はあるんじゃないか。それこそが成果ではないっていうふうに思います。これ質問と言うか私の率直な感想です。以上です。

●窪会長

ありがとうございます。大変貴重なご発言。今のご発言の感想とか、他のご質問とかありましたら。これに少し似たような回答で7番の教育総務課で乗本さんの質問に対する回答の中で、必要に応じて所属長と個人面談を実施し、個人の意見が抱える問題、特にサポート体制の確保、これは吉田さんがおっしゃったことに近いのではないかと思いますけど、つまり、今までは、市が市民に対してどう人権施策をとっていきのかっていうことが中心だったんですけども、ここで初めてその職場環境ですよね、職場の中で起こりうるセクハラとかそういった事、または、それ以外の差別的な問題に関して個人の意見が抱えている問題を、所属長と個人面談し言える雰囲気を作ったというように読んだわけですが、そういう意味で、まさにその個人のセンスや感性を表現していいんだ、所属長に対して個人面談の場で。こういったのが一つの例じゃないかって私は思ったんですが、乗本さんはどう思いました。

●乗本委員

問題は所属長。そういうふうに職員が個々にそういう話をするというのはすごいこと。ただ、具体的な中身がわからないが、良い事だなと思います。関係づくりの中で、この所属長が考えてやったのかなど。

●事務局

全体にはね、そういう会話がしやすいような雰囲気づくり、課にもいろいろあるかと思うんですけども。

●乗本委員

具体的にないのかわからんけど。これはそういう資質を持った人なのか。

●事務局

今現在は職員の中で人事評価制度っていうのがございまして、上半期と下半期で職員との人事評価面談っていうのもあるので、そこで個々の聞き取りであったりとか、そういったものを今させてもらっているんで、今どこの課も今は個人個人課員と話をし、情報を聞き取って反映させるような状況にはなっています。結構どういう、プライベートにどんな感じでっていうのを聞くことによって、皆さんのライフステージなんかもあるので、そういった聞き取れるのはすごく良いと思う。

●窪会長

普通人事に関するそういう問題の時は自分に不利になるようなことは聞きたくないじゃないですか。例えば、不利になるんじゃないかと思っただけで言いたくないんだよね。そこまでできているということですか。

●事務局

そうですね。評価面談をする際にも研修を管理職も受けるんですけど、その際にも管理職側がしゃべるのではなく、課員がほとんどしゃべるような形での比率で話す面談をするってことで研修を受けているので、どこの課もそうであると思います。

●吉田委員

ここには出てないが、私がこの4月に話をした、その話に対して返してくれた一人一人の職員の人権政策推進リーダーという人達の感想は、いろいろインパクトのある回答でした。とり方によって答え方も変わってくる。どこまでその人の心や、またそれを聞こうと受け止めようとするかっていう姿勢が、結局その回答に出た。たまたま私、3月末まで市役所で仕事をさせてもらっていて、この間まで一緒に席並べていた人間の話っていうのもあったのかもしれませんが。ただでもそういうふうなことを職場で、仲間同士で自分の出自に関わるところまで突っ込んで話ができるか、これはなかなか、まだまだ映画の破戒のようにということになるとね。だから、ただ、繰り返しになりますけど、やっぱりその問いかけ方の受けとめ方と、そしてそれをどう自分たちの仕事であったり、生活であったり、生き方にフィードバックし、そういう筋道っていうか、それを同情ではなく、共感であったり、尊敬であったりっていうところに高めていけるような、そういう対話とかがさらにできれば、この市役所はもっと良くなるし、役所が良くなってくれば、当然我々市民は、より良くなる。これはもう間違いないと思っています。

●窪会長

ありがとうございます。そうですね。今おっしゃったのが、今の段階だときっと評価して報告する側も、どういう言葉で表現すればいいのかということところがまだわかってないところが多いと思うんです。だからこういうふうになるというか、従来の紋切り型になってしまうという事なので、もっと具体的なこと言って良いていうふうに思うんです。こういうことでやっぱり変えましたとか、自分も実はそこら辺を思っていました、気がしていましたとかね。そういうような具体的な言葉を持ってきてもいいのかもしれない。他に何かご意見、ご質問ありましたらよろしくお願いします。

●平田委員

モニタリングの件ですが、どうもこのモニタリングっていうのはもう7割の自治体が調査しているんですよって言うから、多分四條畷も書いとけていう意味ですか。あと質問ではありませんが21ページに、公式ツイッターなどとしてあるのですが、ツイッターというのは名前が変わっていて、7月に名前変わって、来年になったら名前どうなるかわからないんですけど、旧ツイッターとか新しい名前でもって聞いています。アンケートのところに、出会い系サイトっていう文言があると思うんですけど、多分今出会い系サイトと言っても、若い人には伝わらないと思うんです。今はマッチングアプリ。多分出会い系サイトと言ったらぱっと浮かぶのが婚活アプリと言ってお見合いをしてくれるやつを想像したり、SNS自体がもう昔の出会い系サイトなんです。ツイッターをやっていると自分の趣味にあう人とか、紹介来ますし、フェイスブ

ックなんかでも自分の近くに住んでいる人とか自分の出身校とあの人からの紹介きますから、出会い系サイトって言うたらその年代とかによって、イメージするものが違うので。いろんな年代の方がでてきているので、どういう文言を使ったらいいかという話をしたら、きっとズレが起こっているわけですよ。

●事務局

あとで文言の関係とか、ネットのモニタリングの関係とか前回もいろいろもらってあります。ちょっとその辺までできてなかったのもう一度整理させていただきます。

●青柳委員

非常によくまとめていただいて評価のポイントも参考にわかりやすくしてあるなどは思うのですが、評価のポイントの方を先に読んでいて、例えば、男性委員として会議に参加したと書いておられるのは男性を提示したのか。たまたま選ばれたのが男性だったのか表現的に気になったんですけど、こちらの実績のまとめにはきちんとした文章が書かれてありましたが、そもそもその比較評価で前進而いうのは、各課が前進であると書いてきたものを、人権の方で前進だというふうに評価したという事でいいのでしょうか。

●事務局

各課からの自主的な判断をもとに、こちらの方からどうのこうのは言っておりません。というのが現状です。

●青柳委員

維持と書いていても、これは前進じゃないかというような内容で、例えば前進になったとかってことは全くないってことですか。そういうのは、継続しているということのニュアンスですね。その辺がちょっと気になったのと、目標とする設定をこれ見たところ、網掛けが各課一つに限定されているように思うので、これは何か意図があって、目標一つに設定してくださいというふうになっていたのか、そうではなくて、各課から一つの目標しか上がってこなかったというふうに解釈していいのかなって思ったことと、これまでと比較して前進したという二重マルのところ結構、網掛けがあったりするのですね。私前も言っていたのは、どんどんマルが増えていくってところへんが、人権市民相談課と各課との連携があっただと思うのですが、担当課であるのに全部丸が打ってあります。いや、でも他の課にしても、なんか様々の差別や人権問題についてというものが、もっと関われる課はあると思われるのですね。この辺のマルのないことに対して、じゃあ前進、何もない、該当事業なしということなのですが、事業なしの中で例えば各課でさっきの聞き取りで前進しましたよというみたいなのがあるのに、そういうことすら人権行政として聞けていない部分もきっとあるんじゃないかなと思われるのですね。だから、もっとマルが増えていってもいいのかなっていうふうには、投げかけとかは以前も聞いていましたけど、ちょっとそれはどうなんかなっていうふうに思います。

●事務局

まず、前進を最低目標設定という形で、最低一つ以上上げて欲しいというちょっと呼びかけをさせていただいていますので。現課によっては、どこまでがすべてが事業というふうな位置付けにしてしまうと、ちょっと形が重くなってしまうのですが、いろいろなベースで書いていただけたら一番いいのですが、その辺がちょっとまだ伝わりにくかったっていうのも確かにあります。ただ、それをもう少し砕けてこういうのも書けるのだというような例を示すような形もさせていただかないといけない。今後のリーダー研修の課題かなど。伝達をどう接していくかっていうのもあるのですが、できるだけいろいろな関わりで、ないとかいうのは最低一つっていうのもちょっと変な話、本来もっとあるはずなのですが、そういう気づきの部分ももうちょっと例年ちょっとと言われることなのですが、まだちょっとなかなか追いついていけないっていうのもあります。

●青柳委員

実際、この評価をしました。実績のまとめはこれですっていうことはもちろん、各課の人権のリーダーさんにこういった資料は行っています。

●事務局

行っています。

●青柳委員

じゃあ、課で情報共有なり、うちの課できることがないかなっていうふうになんかちょっと考える時間を設けてもらいたいと思います。

●窪会長

もう特に回答はよろしいですか。

●事務局

今後例年の話になるわけね。それも言われているので、理解しております。徐々には増えていくのだけでも。

●窪会長

だからここで先ほど言いましたように、もっとざっくりばらんに答えればいいのだよっていうような、行政文書的でなくていいのだよ、そういうコミュニケーション促すような先ほどご指摘があったように、自分たちのところはこう変えてきたのだという話ができたらですね。

●鈴木委員

感性も人それぞれ違うので、なかなか難しいところなんですけど、人の考えを変えていくというのは教育。ただ、それをどうやって変えるのかっていうところが一番問題だ。一つは、その人の

心に火をつけるっていうのが一番大事。職場内で人それぞれ考え方が違うのでいろんな方向からアプローチして、その人に合ったところで火をつけるというような、そういう、それが一番いいかなと思います。

●窪会長

そうですね。それをいかに我々の言葉で表現して、それを今度制度の中に取り入れていくことが大切ですから、そういうご意見も大事だと思います。どうもありがとうございます。その点に関して、ひとつ情報提供があります。少し前に私が参加した平和学会についてです。私たちは、当事者の声を大切にするという考え方を共有しているじゃないですか。被差別者の訴えとか戦争被害者の声とかですね。ところが、その学会で凄い報告がありました。大学で学生に、当事者の声の大切さを教えようとする、それは一方的な意見に過ぎないのではないですか。もっと客観的に、考察しなきゃいけないのではないですかという声が増えてきたっていうのですよ。びっくりしましてね。えせ客観主義っていうことですね、怖いでしょ。情報としてね、皆さんにお伝えします。

●平田委員

これ関連なんですけど、ついこの1週間ぐらい前ですかね。福田村事件という映画をやりましたよね。

あれで出ている田中玲奈さんという役者さんが、デマでいろんな被害があったっていうのは気をつけないといけないのです、ということを書いたら、すごく炎上して、なぜ炎上したかって言うたら震災の後の朝鮮の人の虐殺っていうのはあれば、実際なかったっていうのが、ネットで今すぐばらまかれていて、田中玲奈もそんな今まで俺達がうそを教えられてきたことを未だに信じているのやなっていうすごいネットで炎上したっていうのがあって、今確かに自分は差別されているのだから声を上げたら袋たたきにあうようなネットで今、結構あって。この前もアイヌに対するいろいろ、公金をアイヌの人が取っているのだから、そういう話とかもあって今、ネットなんかですごい被害者を叩くっていうそういう風潮があるのだからって思いますね。

●平田委員

昔、掲示板があった時は違う派遣が入ってきたのだけど、SNSっていうのは、自分の体験の人が集まってそこで自分たち独自の思想っていうのが完成されてしまって、ほんでこの女優がこんなこと言っていたねとか言ったら、みんなでそこいってっていうそういうもう本が出てきていて怖い時代になってきている。

●窪会長

だからこの審議会の重要性とか四條畷市の施策と事業って、ますます重要になっているってことだと思いますね。その背景は簡単で、日本政府や一部の政治家がそうなのです。たとえば、関東大震災後の朝鮮人虐殺を認めないとか、先住民族としてのアイヌの権利を認めないとか。この客観状況はやっぱり警戒しておかなきゃいけないのですね。ありがとうございます

ました。

●吉田委員

この間、朝日新聞で「折々のうた」っていうのをご覧になったことがありますか。朝刊のこの一番見出しってうか一面の一番横に載ってある中にこんなことが書かれていました。加虐しいたげる側の顔というものは存在しません。加虐には顔がないのです。これは詩人の金時鐘（キムシジョン）さんという方でどういうことかっていうと、差別というものは、遠まきにするだけで、相手に直接かかわらず、相手を対象としてすら見ないでいる中で、ますます執拗なものになってゆく、差別するのはそれで自分では差別していることすら思わない。まさに平田さんがおっしゃった、それですよ。今本当にそういう状況なのです。むしろ座長がこういうふうな問題提起してくださった、だからこそ、現状ではあかんのやと。ものすごい力をかけていかないとその作用反作用でいうと、今反作用がどんどん出ていて、テレビを今日つけた瞬間にガザの空爆で傷ついている子どもの姿が当たり前のように流れて、あれって毎日っていうと、別の世界の話というふうに思ってしまうし、ある意味その教育の中でこの問題を取り上げたら、いや、そんな接触のいいものじゃないっていう、おそらくいろんなところから圧力が掛かってそれを教材にすること自体をどうなるかっていうことになるかもしれない。でも、おっしゃったように、歴史の事実に通すとそういう意味で、歴史っていうのは、いるのだろうなって思う。先ほど鈴木委員がおっしゃったように人それぞれに感じ方が違うし思いも違う。でも、ここに心に火をつけないかんっていうことは、それはあえて言うと、そういうインパクトのある人達ばかりが世間におられたらいいのですが、またそういう人たちに、運よく出会えた人たちはそこで、そういう心に火が付くかもしれないけども、そうでない普通の我々市民が隣にいてそのことを日常的に伝えるということ。自分にも孫がいますので、孫と一緒にそういうものを見て、彼らは毎日ゲームの中で戦闘ゲームをやって、何人ターゲットを倒したと競い合う。でも一方で、普段は、友達と話をして遊んだりしている。なんか仮想空間と現実空間のギャップが日々ある中で、一方で SNS の中でも、反対意見を言うと、もう集中砲火。でも、おかしいのどちがうかということすらなんか危ぶまれるような世の中、ほんまにやばいのと違うかと思うのです。だから、そういうことを言える、言う力っていうのが要るのです。ただそのセンスっていうのは一つじゃないからいろんな考え方があって、私も当然、障がいを持っている友達であったり、在日の友達いろんな出したら、自分の考えが違うのです。その人の立場にはその人にはなれないけど、そういう人たち立場にたとうとする努力は出来るなって思うことに最近ようやくそういうものを感じてきたところで、だから、申し上げることはその第1課題である、その実績報告に対する今後、次の年度に向けた報告としては、やっぱり伝えることは絶対要るだろうし、一人一人の感じ方っていうのは一人一人違う。一人一人がどう感じたんやろうっていうようなことを振り返る、そういう意味での実績報告であって欲しいし、あともう一つ言わせてもらうと、市役所の中では、来年度予算を要求するときに、財政ヒアリングやりますよね。この事業はこれだけ必要やからこれだけお金ちょうだいと、この人権施策の目標というのはまさに来年度こういう課題でいきたいということに対して、やっぱりこれあんまり稼働人数が少ない事務局には申し訳ないですけど、そういうヒアリングはいると思うのですね。やられていると思ひ

ますけども、やっぱりその回答に対して、これってどういうことっていうふうな投げかけがあって初めて、事務局もそうだし、当該課の担当者も振り返りができるのと違うかなと思う。そうすることによってお互いが切磋琢磨をして、本当にこの市役所にとって何が大事なのだっていうのが、そこで追及できるのと違うのかなって思う。その話ができれば本当に組織としてもいいな。それは個人にも返るし、個人の中で自分の職場環境の問題も含めて、問い掛けることが出来ると思うので。

●窪会長

ありがとうございます。おっしゃる通りで、先ほど言いましたように、国と府が上げてね、もう人権施策が@どんどん後退ついている状況でしょう。当然その隣保館もなくなっちゃって、部落差別問題であったり、外国人差別問題であったり、これまでみなさんが叩き上げてきたものを上から潰してきて今もされている。国連からあれだけ日本の人権状況について勧告が出されても、耳を傾けようとしない。大阪府もどんどん人権に関する施策がトルツメ予算カットされていく、そういう状況の中で平田さんがおっしゃったように若い人たちが言って良いんだと、差別する側の声も言って良いんだみたいなことがどんどん普及されているってことがある。吉田さんがおっしゃっていた、だからこそ現実に窓口で市民に対応する市の意識がますます重要になってくると今の吉田さんの話で思いました。

●守屋委員

この前、新入職員と人権研修で水平社博物館に一緒に行きましたが、上にあがる時に靴を脱いだら、ちゃんと靴をそろえてもらって研修が大事。みんなに優しいことを皆言ったら、違うのはちょっと恥ずかしい。今の経験で。家に居たら差別とか全然何も感じないけど、一方、電車乗ったりバス乗ったり外へ出たら何か感じる。こういう研修、いろんな経験したらもっと良くなっていく。

●窪会長

乗本さんの質問回答の8番、研修で小中学校教職員を対象に例年人権研修を実施ってそれは素晴らしいと思うんですけども、このテーマをどのように決めているのかっていう事を教えていただきたいと思います。①部落問題学習の具体的な実践②自己実現・集団作り③ジェンダー平等、これ自体悪いとは思わなく、何が言いたいかと申しますと、ちょっと現状からずれているんじゃないっていう感じがします。今年、実は新聞とかお読みになっていることだと思いますけども、いじめの件数過去最大、不登校の数が過去最大です。つまり、教育における排除の状況がどんどん進んでいる。今起きている問題に関して、しっかり迅速に対応しなきゃいけないんだけども、もっと言えばどういうふうにとまってちょっと質問がありまして。いじめと言ったらやっぱり大きな問題ではないですか。しかも教室だけじゃなくて、これ職場のいじめ、あらゆる日本の社会って人間が集まれば必ずいじめが起こってしまう状況なんですよ。

●河江副会長

これは学校独自でやっているのではなくて大阪府の大人協の研修とかがあって、それぞれのブロックがあって、そのことを書いているのかなと思う。テーマ的には柱があって、大人協研修とかでテーマが部会みたいな感じであったと思う。各学校は、学校教育課がヒアリングをして、自分のとこでどうするかっていうのは、またこういう形では上がってないけれども、学校独自で取り組んでいるものと、教職員がそういう団体に即してやっているものを分けて、教職員がある研修、そういうところにひとりで行ったもの。各学校は何に力を入れようとか子供にも返して、教職員だけじゃなくて子供に返していくから、それに向けて研修を通じて子供に対して、各学校でいじめが一番問題あるなと思ったらそういうのを学び、そういった子供に授業の中で出していく。そういうのはもうすごい膨大な量で担当課が各学校で何時間もヒアリングしているのでまとめきれない。

●窪会長

ある中学校の女の子がいじめられていて、ノートに、「私は死ねばいい」と先生に言って出したら、それが五十丸つけて「YOU CAN DO IT」と言ったという。先ほど吉田さんが人権感覚無いやつは公務員になるんじゃないと言われましたけど、まさに先生になれるわけがないじゃないですか。「死ね」っていつているわけでしょう。

●乗本委員

私は四條畷市を見て、非常にそういう意味では、上澄みの綺麗なところの接し方がうまかったですね。私のいた市は組合の旗色も周辺の市とは違います。旗色が違うし、解放運動とはある意味敵対していた。職員自身も疑心暗鬼的な部分があって。やはり、当時の部落問題解決せなあかんとか、色々含めて付き合わない。だからそこら辺で、やはり人間やから色々含めてなかなか職員は動けてなかった。ところが私が四條畷市を羨ましいと思ったのが、吉田さんや前の組合委員長も含めて、非常に純粋なところ。そういう意味では、四條畷市は地域を抱えてないけれども、こういう形の人権部分も純粋な取り組みがあったと思う。もちろんその中でやっぱりやるべきことはやらないといけないので、庁内的にいろんな背景があったからある意味では行政的にはしんどかった部分があった。四條畷市はそんなことなしにやっぱり純粋に関わっていった。だから今の時代なったら四條畷市みたいな取り組みは非常に羨ましい。

●窪会長

ありがとうございます。大東市と四條畷市は消防とか警察と一緒にやっていて、そういう意味でそれによるメリットとデメリットがあるので、おっしゃる通りでメリットを出していく。努力したいと思います。ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。もしなければ次の案件に移らせていただきたいと思います。案件2、人権市民意識調査について事務局から説明をお願いします。

●事務局

それでは説明いたします。資料で人権行政基本方針改定スケジュール、それと調査にご協

力ということで配付させていただいております。改定スケジュール表を見ていただきたいのですが、令和7年度に基本方針の改定がありまして、その準備として今回意識調査を実施させていただきます。令和5年度意識調査の原案策定ということで、概ね5年ベースでやってきています。令和6年度に発送予定ですが、今年意識調査の素案を策定するにあたり調査のご協力のお願いということで前回の意識調査をベースにしております。経年経過を見るということもありますので、踏襲しながら新しい項目を追加しております。人権全般についてのところでは、新型コロナの関係とか、刑を終えて出所した9番と11番これを追加させていただきます。次に10ページの新型コロナウイルスの感染症に関する人権問題ということで、問20の1と2を追加しております。あと11ページで、刑を終えて出所した人の人権についてということで再犯防止推進法が施行されたということも追加しております。それとあと、12ページ性的マイノリティの人権ということでこの部分についても問25を追加しております。それと最後は14ページですが、市の人権市民相談課で様々な相談窓口があるということで案件を追加しております。以上が主な追加項目であります。2000人を対象に無作為で抽出しアンケートの実施を行っていきたいと思っております。これに基づいて今回この件に関して各担当課の人権リーダーにも平行して意見を聞いておりまして、審議会の方でもご意見を頂き整理していきたいと思っております。

●守屋委員

SNSでのアンケートの回答方法は？

●平田委員

一人でアカウントをいくつも取れてしまう。

●事務局

一つの案としては紙ベースの回答とログフォームで回答してもらう方法を検討。

●吉田委員

この調査を何のためにやるかっていうことを、調査のご協力のお願いだけでいいのかなと思うんです。まずはその四條畷市としての立場をちゃんとはっきりしとかんとあかんとちがうかなと。これは何のためにやるんだっていうことの目的と、今四條畷「市」としてしようとしていることを。かつて大東市と市町村合併しようかって言う際に、差別部落のある自治体と隣近所一緒になるのはどうかなってというようなという回答があったんですが、これは正直な意見です。しかし、それ自体が問題だという事になった時に、大東市と四條畷市がどういう意味で合併していくのかっていうのがちゃんと理解されることが前提にあって、しかし、いろんな問題が発生する事がいろいろあるということで、もうやめたこと自体の問題がどうなのかっていうことが全体でまだ共有されてないというか、自治体として良くしようと思ってる調査なのに何か足引っ張られたことになってしまったなというのが正直あるんです。ただ、世代間ギャップというか、かつてやったら何言っているのと言っていいようなことが、もう平然と。政治

家が法務局人権擁護局から再三指摘を受けながらも差別を振りまいていると。そんなことが一方であるんですね。果たしてどうなんだっていうものがあるんだけど、でも実際のところ、人の心の中に手突っ込んで、それを明らかにするというものなかなかできないんだけど、これが一つの意識調査っていうのは、ある意味、本音を聞くっていう意味で大事でした。ただ、せっかくのアンケートやから、これはある意味、2000人を人権啓発するっていうのがあると思います。さっき自分の出自を明らかにして語りをしました。それに対して答えがかえってきました。それはやりすぎやと。でもそれって見渡せの人間しかやりとりできません。だけど、アンケートと言うのは、いろんな人がいろんな意見を千差万別で見えてくれるっていう意味で行政が参考にできる。ということで調査に協力してくれる人に対して何か訴える事が出来ると思う。

●窪会長

これはなぜここに入っているとかいう理由説明できます。私の推測ではね、昔のやつ見ていたらそうでしょ。これは実は差別問題の特徴なんです。つまり、差別の問題っていうのは差別を受けてる人の問題だっていう、そういう刷り込みですよ。これは実は原因はどこかというとならぬ。これもまさにそうなんです。前提がね。だからこれを見てしまってこれ先ほど啓発的な意味があるとおっしゃたけどもここで啓蒙されてしまう。なので過去から改修的にやっているというふうであれば反省して、これは削除すべきだという個人的な意見です。もっとね、客観的な質問に変えたいんだったらどうするかという、差別というのは、差別される側の人間の問題であるという考え方と、そうではなく、社会の問題があるという考え方があるが、どちらだと思いますか。これ何が言いたいかと申しますと実は先ほど学会の話しましたけれども、去年の国際人権法学会で、水平社宣言100周年記念企画があったんです。そこで、これはつまり差別される側の問題だから教えなければいいという意見がだされたのです。寝た子を起こす論ですよ。こういった発想がどうして出てくるのかっていうと今言った、昔から言われている差別を受けている人の問題であるとか、権利を主張する側の人の問題であるとか垂れ流してきた考え方なんです。それで私申し上げたんです。そんなことやっているのは日本だけです。今世界の潮流というのは、差別というのは、差別される側の問題ではなく、差別する社会の問題で、社会を変えていかなきゃいけない。やはりこの四條畷では国際的に先進的な取り組みをしていただきたいと思っていますので、これを採用する方向は先ほど申しました事になります。

●乗本委員

ちょっと選択肢考えてかないと。それと調査協力をお願いの中でもうちょっとそこら辺のところが明確に言った形の文面で。

●平田委員

前は3割、10代が少なかった。学校にお願いするとか。

●青柳委員

人権全般の説明の中で、全員に関する問題、2番は男性の人権に関する問題って書いてるんだけど、男性に関する問題もあるんで。あと自殺が多いっていうのは、一時期すごく言われてたので。ちょっと反映することができるんじゃないかと。

●事務局

問を増やす可能性もあります。いろいろ削除変更の作業を今日の意見を聞きながら、他課にも全部まわしていますので修正もしていきます。

●窪会長

日本におられる難民の申請者及びそれに伴う仮申請者の処遇について存知ですかっていう、これ最近、「ワタシタチハニンゲンド」っていうドキュメンタリー映画があって、その内容がすごく深刻なことで、日本って本当にひどいのは難民申請している間は生活費なし、働いてはいけない、学校もいけない。保険も受けられない。つまり生きるなど言っているんですよ。これ果たして人権っていう根本的にどうかってことです。四條畷市にどれだけの難民申請者がいるか、その状況がどうかご存知ですか。状況がおわかりでしたら教えていただけたら。

●平田委員

どこまでが真実かわからないが、クルド人が参政権を取得しようとしてその土地を乗っ取ろうとする情報がネットにのっていたが、外国人に対する参政権についてのどう思っているのか。

●窪会長

ほかご意見よろしいですか。なければ本日の案件はすべて終了いたしました。本日の案件は以上となります。皆様どうもありがとうございますありがとうございました。